

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



まちづくりのサミット



パロツコが運営する居場所「カフェパロツコ」

「気づき」を實踐に

「ほっとネット」×「公民館」

西東京市は、市民誰もが住んでいてほっとできる地域になるよう、地域の力で地域の課題を解決していくしくみづくりに取り組んでいます。地域福祉コーディネーターは、この「ほっとするまちネットワークシステム」、通称「ほっとネット」の要ともいえる存在です。さまざまな人や地域の活動団体、関係機関、サービスをつないで、市民一人ひとりの困りごとや地域の課題を一緒に解決していきます。市内を4つの圏域に分け、4人で分担しています。

編集室では、西東京市地域福祉コーディネーターの大賀晴江さん、篠原京子さん、塚澤貞明さん、関野大樹さん(平成29年3月31日まで担当)取材しました。

大賀「私たちは、何でも相談窓口。最も多いのは電話による相談ですが、窓口まで来られない場合はお宅まで出向いたり、公的な施設でお会いしたりすることもあります。フットワークが軽いことは私たちの強みです。相談内容は「隣の庭木が伸びて困る」「近所の一人暮らしの高齢者が気にかかる」「子どもの泣き声が虐待ではと気になる」「地域で何か活動したい」など、多種多様です。

篠原「ありとあらゆる社会資源を活用して支援の方法を探りますが、公的制度や既存のサービスだけでは、解決が難しい場合も多々あります。そんな時、力になってくれるのが、ほっとネット推進員(以下「推進員」)です」

大賀「推進員が新たに知人を紹介してくれるケースが増えました。それは、自分がやってみて良かったという経験が他の人を誘うことにつながっているのだと思います」

関野さんはこう言いますが、何かをしたいという気持ちに寄り添い、支援していく地域福祉コーディネーターの存在が大きな力になったことは確かです。

篠原「公民館は、主催事業で地域の課題に取り組んでいますね。受講者の関係が形成されることで連続講座の魅力だと思っています。自主グループに発展する場合もある。その人たちが講座での学びを地域に生かそうとした時、私たち、地域福祉コーディネーターがお手伝いできることがあります」

一人ひとりの気づきから
地域の支え合いによって誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組む上で、支援を求めている人やみんなで解決すべき課題に気づいて動く推進員と、人や団体・機関をつなぐ地域福祉コーディネーターは、重要な役割を果たしています。推進員は、地域の中にある困難を感じるとアンテナともいえる存在。取材を通して、市民一人ひとりの気づきや行動は地域を変えていく力となり、学ぶことは「気づき」のアンテナを良好にしてくれるのだと感じました。

おもしろい実践に
保谷駅前公民館では、平成27年度に連続講座「困難をへきる力」に変えるヒントⅡの中で、「孤立させない地域力」をテーマに関野大樹さんを講師に迎え、推進員登録の研修を兼ねた講義を行いました。ほっとネットの活動に賛同した受講者が推進員となり、その人たちが中心となって「パロツコ」というサークルが生まれました。社会で生きづらさを抱えている人たちと一緒に何ができるかを考えていく会です。(写真・下)

関野「立ち上げに関して、僕は何もしていないです。公民館職員やほっとネット推進員さんの

熱い思いで立ちあがった会であり、僕は横で『がんばれ』とか声をかけていただけです。でもかかわったことがこのようにいい形になっていくことはとてもうれしいです。パロツコは、公民館での学びがあったからこそできた場だと思います」

関野さんはこう言いますが、何かをしたいという気持ちに寄り添い、支援していく地域福祉コーディネーターの存在が大きな力になったことは確かです。

篠原「公民館は、主催事業で地域の課題に取り組んでいますね。受講者の関係が形成されることで連続講座の魅力だと思っています。自主グループに発展する場合もある。その人たちが講座での学びを地域に生かそうとした時、私たち、地域福祉コーディネーターがお手伝いできることがあります」

一人ひとりの気づきから

地域の支え合いによって誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組む上で、支援を求めている人やみんなで解決すべき課題に気づいて動く推進員と、人や団体・機関をつなぐ地域福祉コーディネーターは、重要な役割を果たしています。推進員は、地域の中にある困難を感じるとアンテナともいえる存在。取材を通して、市民一人ひとりの気づきや行動は地域を変えていく力となり、学ぶことは「気づき」のアンテナを良好にしてくれるのだと感じました。

ほっとネットステーション
田無(田無総合福祉センター)
☎042-497-4158
保谷(市役所保谷庁舎)
☎042-438-9205

毎年、11月に開催される西東京市民映画祭自主制作映画コンペティション。2015年にアニメ優秀作品賞を受賞した「犬の夢」という作品の監督、李旭堃さんは中国天津市の出身です。受賞が縁で、現在、市内のアニメーション制作会社でアニメーターとして働いています。

小さいころから日本のアニメーション(以下「アニメ」)が大好きだった李さんは、中国の大学でアニメを専攻し、卒業後、来日。2016年3月に大学院修士課程を修了しました。

3Dアニメが主流の中、日本では今も2Dアニメが主流です。李さんが日本で就職した理由の一つはここにあり、リアルで実写に近い3Dアニメよりも、子どもたちの想像力がふくらむ2Dアニメに魅力を感じるからです。紙に描いた絵をパソコンに取り込み、ソフトウエアで編集するというのは、子どもの時から絵を描いてきた経験と大学で学んだ編集の技術を生かせる方法でもあります。

時には、1枚でも手間のかかる絵を、少しずつ変えながら何枚も描く仕事を「ちょっとつらい」と感じることも…。でも、人間関係に恵まれ、雰囲気の良い今の職場でこれからも働いていきたいと思っています。

祖父も父も日本での生活経験があるという家庭で育ち、「日中の架け橋になりたい」という思いを抱いている李さんの夢は、日本と中国のアニメ制作会社が一緒に作品をつくること。今、子どもも理解できる糖尿病についてのアニメを日中共同で制作する計画が進行中です。

西東京 なう アニメーションを 架け橋に



リキウクン
李 旭堃さん
(27歳・田無町在住)



田無駅前通商店街
正面奥が田無駅
平成2(1990)年撮影
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



現在。左奥に見えるのはアスタビル。
撮影：水口トミオ(保谷町在住)

写真で見る いまむかし
田無駅前通商店街
田無駅北口再開発事業により、平成7(1995)年にアスタビルがオープンしました。田無駅前通商店街では、アスタビルやイングリルなどに移った店舗もありました。